

12月17日(金)

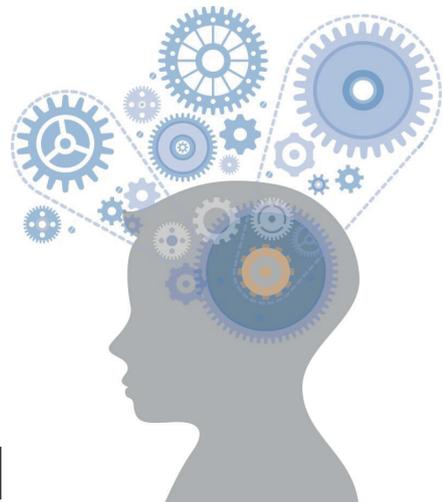
「次世代脳」実行委員会企画プログラム

⚙️ 学術変革領域研究 (A) の紹介

⚙️ 「日本の神経科学 ～温故知新～」

(特集：島津浩先生、伊藤正男先生、佐々木和夫先生)

次世代脳プロジェクト  
冬のミニポジウム 2021



# 「次世代脳」実行委員会企画プログラム

12月17日(金) 12:30 - 17:30

## ■「次世代脳」プロジェクト実行委員会

### <プログラム>

- 12:30 ~ 12:35 学術集会代表挨拶  
尾藤 晴彦 (東京大学 / 脳情報動態)
- 12:35 ~ 13:15 学術変革領域研究 (A) の紹介
- ・ グリアデコーディング：脳-身体連関を規定するグリア情報の読み出しと理解  
[グリアデコード]  
領域代表：岡部 繁男 (東京大学)
  - ・ 脳の若返りによる生涯可塑性誘導— iPlasticity — 臨界期機構の解明と操作  
[臨界期生物学]  
領域代表：狩野方伸 (東京大学)
  - ・ 「当事者化」人間行動科学：相互作用する個体脳と世界の法則性と物語性の理解  
[当事者化行動科学]  
領域代表：笠井 清登 (東京大学)
  - ・ 神経回路センサスに基づく適応機能の構築と遷移バイオメカニズム  
[適応回路センサス]  
領域代表：磯村 宜和 (東京医科歯科大学)

- 
- 13:30 ~ 17:30 日本の神経科学 ～温故知新～  
(特集：島津浩先生、伊藤正男先生、佐々木和夫先生)  
企画担当：高田 昌彦 (京都大学) ・ 古屋敷 智之 (神戸大学)

## 「次世代脳」実行委員会企画プログラム

# 「日本の神経科学～温故知新～」

12月17日（金）13:30 - 17:30

■高田 昌彦【京都大学】

■古屋敷 智之【神戸大学】

本企画プログラムでは、次世代を担う若手研究者育成の一環として、我が国の脳神経科学の礎を築かれた著名な先生方の研究や思い出を親しい先生よりご紹介いただくとともに、関連する研究分野で現在ご活躍の先生方にご自身の研究についてご講演いただき、我が国の脳神経科学がどのように継承され発展してきたかを学ぶ機会を提供することを目指している。

第五回は、本企画の一区切りとして、島津浩先生、伊藤正男先生、佐々木和夫先生（いずれも故人）を特集する。今回は各先生方と親交の深かった先生方にご登壇いただき、在りし日の島津先生、伊藤先生、佐々木先生のご研究やお人柄、思い出をご紹介いただく。

### 島津浩先生のご略歴（出典「神経科学ニュース」（2019年 No.3）より抜粋・改変）

東京大学医学部名誉教授、東京都神経科学総合研究所元所長、日本神経科学学会名誉会員。昭和27年に東京大学医学部を卒業後、インターンを経て、当時若林勲先生が主宰されていた東京大学医学部第二生理学講座の大学院に入学、その後昭和37年に時実利彦教授が主宰されていた東京大学医学部脳研究施設脳生理学部門（脳研生理）の助教授に着任。そして昭和45年に時実先生の後任として同部門の教授に就任。その後の神経生理学を国際的にリードしていく多くのすぐれた研究者が大学院生としてその薫陶を受けた。昭和61年に定年退職後、平成5年まで京都神経科学総合研究所所長を歴任。平成31年逝去。

### 伊藤正男先生のご略歴（出典「ブリタニカ国際大百科事典」「日本大百科全書」「Wikipedia」より抜粋）

神経生理学、神経科学者。1928年（昭和3）愛知県生まれ。1953年東京大学医学部医学科卒業。1970年東京大学教授、1986年同医学部長。1983年から1998年まで日本神経科学学会会長。1989年理化学研究所国際フロンティア研究システムに移り、理化学研究所脳科学研究センターの創設に関われ、同センター初代所長（1997～2003）、同特別顧問。1994年（平成6）日本学術会議会長、2004年国際科学技術財団会長などを歴任。Human Frontier Science Programの創設も牽引した。日本学士院会員。東京大学名誉教授。米国科学アカデミー外国人会員。長年にわたり小脳の神経回路網の構造と機能解明の研究を続け、記憶や学習の脳内過程の研究など複雑な脳のメカニズムの解明に貢献した。小脳研究の第一人者。1981年藤原賞、1986年恩賜賞・日本学士院賞、1993年ロバート・ダウ神経科学賞、IPSEN財団賞を受賞。1994年文化功労者となり、1996年文化勲章、1998年レジオン・ドヌール勲章などを受章。平成30年逝去。

### 佐々木和夫先生のご略歴（出典「京大広報 No.525」「神経科学ニュース」（2017年 No.4）より抜粋）

昭和4年兵庫県生まれ。昭和29年京都大学医学部医学科を卒業、同34年同大学院医学研究科博士課程を修了後医学部助手に採用され、同37年助教授に昇任された。昭和38年から41年までオーストラリア国立大学、同43年から44年までマックスプランク脳研究所で研究に従事した。昭和45年8月京都大学医学部附属脳神経研究施設教授に、平成2年6月改組により同大学院脳統御医科学系教授となり、平成5年定年により退官し、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間平成元年4月から平成3年12月まで評議員、引き続き平成5年3月まで医学部長医学研究科長を併任した。平成3年1月から岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授を併任し、京都大学退官後、同研究所専任教授となり、同9年4月から所長、同15年4月から1年間は岡崎国立共同研究機構長を務めた。平成10年には「中枢神経系の統合機能に関する研究」により日本学士院賞を授与、平成17年には長年の公務における功労に対して、瑞宝重光章を授与された。平成29年逝去。

## <タイムテーブル>

- 13:30 ~ 13:35 企画プログラム「日本の神経科学～温故知新～」について  
高田 昌彦（京都大学）、古屋敷 智之（神戸大学）
- 13:35 ~ 14:25 流行は自分で創りなさい：島津浩先生の思い出  
伊佐 正（京都大学）
- 14:25 ~ 14:35 休 憩
- 14:35 ~ 15:25 伊藤正男先生と小脳の脳科学  
永雄 総一（のぞみ病院・高次脳機能研究所）
- 15:25 ~ 15:35 休 憩
- 15:35 ~ 16:25 独創的であるとは？ 佐々木和夫先生から学んだこと  
南部 篤（生理学研究所）
- 16:25 ~ 16:35 休 憩
- 16:35 ~ 17:30 パネルディスカッション  
進行：高田 昌彦（京都大学）、古屋敷 智之（神戸大学）